

ボランティア新聞

第2号

令和2年10月26日

鹿沼市立菊沢西小学校



こんにちは。今回は、ボランティアのセミナーで学んだ「地域学校協働活動」についてお話しします。

これは、文科省が推し進めている活動の一つで、これからの社会を創り出していく子どもたちの資質や能力の成長と、地域の活性化を図ることが目的だそうです。学校と地域が一緒になって子どもたちの育成に取り組むこと、すなわち学校教育を学校内に閉じずに、地域の人的・物的資源を活用していこうということです。子どもたちにとって、『体験すること』や『本物を見る』ということは、将来において未知のものに遭遇したときに、正しく判断できる『力』になります。そこで、地域特有の自然環境や行事を活用して、子どもたちに社会の規律や知識を学んでもらい、地域に誇りをもつ人材に育てていこうという、学校と地域が連携した教育活動ということです。

私たちは、学校の先生のように勉強は教えられませんが、個々の仕事や経験からの学びを教えることができます。子どもたちと触れ合う機会には、社会の先生として声掛けをしていくことが大切だなと思いました。

このセミナーで永年の疑問が解消できたことがあります。それは「どうして小学校担任の先生はすべての教科を受け持つのか」ということです。講師の方のお話では、「小学生は心身ともに大切な成長過程にある子どもたちであるため、その成長や変化を常に見守るため」というのが理由の一つだそうです。ずっと前からの疑問が解消でき、これが一番の成果だったような気がします。

8月23日（日）にPTA奉仕作業が行われました。毎年、この奉仕作業のときに、体育館駐車場の草刈りをしてくださるのが**見友会**の皆様です。広い駐車場も、あっという間にきれいになってしまいます。また、見友会の皆様は、黒川の河川敷の草刈りのほか、河川敷や県道沿いのゴミ拾いを行うなど、地域全体のために力を尽くしてくださっています。ゴミのないきれいな通学路で登校できたり、4年生の黒川観察ができたりするのは、見友会の皆様のおかげだったのですね。

本当にありがとうございます。



2学期が始まったばかりの日曜日、子どもたちが、毎年、とても楽しみにしている「生き物観察会」が行われました。この催しを企画してくださっているのが、**見野・富岡・下遠部環境整備協議会**の皆様です。学校の北側の用水路では、ドジョウ、カワムツ、沢ガニ、ヤゴの他にも、きれいな水にしか生息しないナベブタムシも見つかりました。豊かな自然環境は地域の宝物です。また、たくさんの花をいただき、花壇にはいつも色とりどりの花が咲き、私たちの目を楽しませてくれます。通学路の草刈りもしてくださり、子どもたちは気持ちよく登校することができます。

大変ありがとうございます。



新型コロナウイルス感染症対策のため中断されていましたが、9月から、**図書ボランティア「読み聞かせ」**の皆様による朝の読み聞かせが再開されました。子どもたちが待ちに待っていた、朝の素敵な時間が戻ってきました。本の読み聞かせはもちろんですが、いつも楽しいお話、ためになるお話など、子どもたちの心をくすぐるお話をしてくださっています。子どもたちはきらきらと目を輝かせながら聞き入り、心にいっぱい栄養をいただいています。

これからもどうぞよろしく願いいたします。



「ボランティア新聞」に関するご意見、ご感想、ご要望等がありましたらご連絡ください。
(62-3479) 担当：教頭（関）